

機 関 名	農業試験場		課題コード	H270303	事業年度	H27 年度 ~ H29 年度			
課 題 名	秋田の花を彩る新品種育成								
機関長名	照井 義宣			担当(班)名	花き担当				
連絡先	018-881-3318			担当者名	間藤 正美				
政策コード	2	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略						
施策コード	1	施策名	“オール秋田”で取り組むブランド農業の拡大						
指標コード	6	施策の方向性	生産・消費現場と密着した試験研究の推進						
種 別	重点(事項名) 野菜・花きの県オリジナル品種育成による生産拡大						基盤		
	研究		開発	○	試験		調査		その他
	県単	○	国補		共同		受託		その他

評 価 対 象 課 題 の 内 容

1. 研究の概要

園芸作物を組み合わせた複合化推進は本県農業の長年の課題であり、県内産花きのブランド化に対する要望は強い。県オリジナル品種を核とした「秋田ブランド」の確立に寄与するため、現在まで、トルコギキョウについて4品種を育成した。前県単課題から、品種登録の際には市場関係者への調査を行っているが、引き続き関係機関連携のもと、マーケティング調査を行い、情報収集に努める。

試験場では、重点5品目のうちトルコギキョウとシンテッポウユリについて、育種を進める。

- (1)トルコギキョウの新品種育成
 - ・‘こまちドレス’シリーズのピンク、紫等の花色の育成
 - ・新シリーズ化に向けた花色、花形、花の大きさ及び開花の早晩等の多様化、品種育成
 - ・育成した品種の栽培技術の確立
- (2)シンテッポウユリの新品種育成
 - ・長期安定出荷へ向けた早～晩生品種の育成
 - ・育成した品種の栽培技術の確立

2. 課題設定の背景(問題の所在、市場・ニーズの状況等)

(1)トルコギキョウ

様々な用途に使用され、多様なニーズがあり、花色、花形、花の大きさなどで、多様化の要望がある。また、市場から長期安定出荷の要望があるが、県での主な出荷期間は7～11月である。長期安定出荷のため、開花の早晩でのシリーズ化が求められている。

(2)シンテッポウユリ

市場からは長期安定出荷の要望があるが、県の主な出荷期間は7～9月で、早生化が求められている。また、盆、秋彼岸需要期の集中出荷が求められているが、この期間にきっちり出荷できる品種がない。さらに、品質の揃いが悪い問題がある(花の上向き性や花の輪数等)。

3. 課題設定時の最終到達目標

①研究の最終到達目標

トルコギキョウは花色、花形及び花の大きさなどの形質の多様化及び開花の早晩のシリーズ化を行う。
シンテッポウユリは、品質の揃いを良くし、開花の早晩のシリーズ化を行う。

②研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度

トルコギキョウ:受益対象面積 15ha、受益対象生産者数 180名、全生産者が品種作付け体系の一部に栽培可能
シンテッポウユリ:受益対象面積 10ha、受益対象生産者数 50名、全生産者が品種作付け体系の一部に栽培可能
・トルコギキョウは、花色、開花の早晩、花形及び花の大きさなどで多様化することにより、様々な消費者ニーズに対応でき、秋田県産オリジナル品種の市場の認知度が高まる。また、開花の早晩のシリーズ化により、長期安定出荷が可能となる。
・シンテッポウユリは、開花の早晩のシリーズ化により、長期安定出荷が可能となり、オリジナル品種の認知度が高まる。また、盆、秋彼岸需要期集中出荷が可能となり、市場からの信頼が得られる。

4. 全体計画及び財源 (全体計画において ≡≡≡ 計画 ——— 実績)

実施内容	到達目標	27	28	29	年度	年度	(最終年度)	
		年度	年度	年度				29年度
トルコギキョウ	‘こまちドレス’シリーズのピンク、紫等の花色の品種育成							
	新シリーズ化に向けた花形、花の大きさ、開花の早晩等の多様化、品種育成							
	育成した品種の栽培技術の確立							
シンテッポウユリ	長期安定出荷へ向けた早生品種の育成							
	育成した品種の栽培技術の確立							
計画予算額(千円)		1,500	1,500	1,500			4,500	
当初予算額(千円)		1,000	850				1,850	
財源内訳	一般財源							
	国費							
	その他							
							合計	

(標準様式～裏)

観点	<p>1. <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>(1)トルコギキョウ 流行はフリンジの八重咲き品種に変わってきている。市場からは、八重咲きで、新規性の高い花色や花形、市販品種にないきれいなオレンジや赤の花色、ボリュームの取りやすい淡紫色、秋向けのピンク花色などの育成へのニーズがある。生産者からは、11月まで出荷可能な早生および中生品種の育成や10月出荷で短日処理を必要としない晩生品種の育成へのニーズがある。</p> <p>(2)シンテッポウユリ 市場からは、6月末～7月上旬の新盆出荷に対応できる早生品種育成へのニーズがある。消費者からは、無花粉ユリ育成のニーズがある。生産者からは、葉枯れ病菌が薬剤に抵抗性を示すようになってきていることから、葉枯れ病耐性品種育成へのニーズが高まっている。</p> <p>(委員の意見) ・トルコギキョウの育種目標としている新規性の高い花色は、用途場面が限られる恐れがある。同形質での花色や早晩性の展開も育成において考慮する必要がある。 ・シンテッポウユリについては、早生、無花粉、葉枯れ病抵抗性の特性を備えた品種育成は実需者、生産者からの要望が高い。 ・トルコギキョウ・シンテッポウユリとも消費者から具体的なニーズが上がっている。 ・花きの新品種開発については、現場のニーズは高いと思われるが、花きは品種の入れ替えが激しいこともあり、公設試としては限界もあるのではないか。品目を絞って実施すべきと考える。 ・花き品種は一般に、嗜好性が高く、また、流行の変遷も速いことから、実需者ニーズの把握が特に重要となっている。</p> <p>A. ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている C. ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている B. ニーズに大きな変動はない D. ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている</p>												
効果	<p>2. <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>(1)トルコギキョウ 流行やニーズに合った品種を育成し、秋田オリジナル品種の多様化を図ることにより、生産販売、市場取引を有利に行え、生産者の所得拡大に貢献できる。</p> <p>(2)シンテッポウユリ ニーズに合った品種を育成することにより、生産販売、市場取引を有利に行え、生産者の所得拡大に貢献できる。</p> <p>(委員の意見) ・生産性の高い品種育成により、生産者の所得拡大に貢献が可能となる。ただし、トルコギキョウの場合は、品種の変遷が激しいことから、常にニーズ把握に努め、開発のスピードアップが必要。 ・消費者ニーズに応える新品種の育成は、生産者の所得拡大に繋がると期待できる。 ・県オリジナルの支障評価の高い品種が育成されれば、産地拡大と農家所得の向上が期待される。 ・トルコギキョウ、シンテッポウユリの県オリジナル品種開発の役割を明確にし、現場に使ってもらえるよう、デビューの仕方、プロモーションなどを行政と一緒に取り組むことが重要である。</p> <p>A. 大きな効果が期待される C. 小さい効果が期待される B. 効果が期待される D. 効果はほとんど見込めない</p>												
進捗状況	<p>3. <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>(1)トルコギキョウ ・組合せを作成したF1系統については、組合せ能力検定を行うとともに展示会を通じて品評を行い、比較的评价の良かった3系統(濃ピンクフリル八重を「秋試交14号」、黄地ピンク覆輪八重を「秋試交15号」、淡紫八重を「秋試交16号」とし、平成28年度は現地試験を行う。 ・職務育成品種とした2品種(「秋試交12号」濃ピンク八重)、「秋試交13号」特殊紫覆輪)については、平成28年度は現地試験2年目を行う。 ・これらの現地試験では、品種候補並びに育成品種の現地適応性を調査する。</p> <p>(2)シンテッポウユリ 早生系の有望3系統を選抜し、次年度は促成栽培の現地試験を行うこととした。 ・有薬無花粉株群系統の「秋試1号」については、栄養繁殖における無花粉特性の安定性が確認できた。引き続き栽培試験を行い品種登録の有無を検討する。 以上のように、計画は順調に進んでいる。</p> <p>(委員の意見) ・トルコギキョウは育成品種5品種を現地試験中。で普及性の可否を判断する段階までできているので計画どおりに進んでいる。シンテッポウユリは、栄養繁殖での増殖となると普及にあたって球根の確保が大きな壁となることから、鱗片繁殖による1年目での収穫可否についての確認を急ぐこと。 ・新品種の開発は進展しており、当初課題になかった、無花粉ユリの育成も進められている。 ・概ね計画どおり進捗していると判断される。 ・開発した品種を、どう生産販売に結びつけるかも見通して、品種育成することが重要である。</p> <p>A. 計画以上に進んでいる C. 計画より遅れている B. 計画通りに進んでいる D. 計画より大幅に遅れている</p>												
目標達成阻害要因	<p>4. <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>(1)トルコギキョウ 市場のニーズや流行の変化が早いこと、品種育成から生産販売への段階のスピードアップが急務であり、関係機関との調整が必要である。</p> <p>(2)シンテッポウユリ 有薬無花粉株群系統については、種子を確保するために有花粉系統との交配が必要となるが、無花粉形質が遺伝的に劣性形質であるため、種子での繁殖は難しい。よって、鱗片繁殖による栄養繁殖により、1年目から収穫可能か、検討が必要である。</p> <p>(委員の意見) ・市場ニーズの変化にも留意して研究を進めてもらいたい。</p> <p>A. 目標達成を阻害する要因がほとんどない C. 目標達成を阻害する要因がある B. 目標達成を阻害する要因が少しある D. 目標達成を阻害する要因が大いにある</p>												
総合評価	<p><input type="radio"/> A 当初計画より大きな成果が期待できる <input type="radio"/> B+ 当初計画より成果が期待できる <input checked="" type="radio"/> B 当初計画どおりの成果が期待できる <input type="radio"/> C さらなる努力が必要である <input type="radio"/> D 継続する意義は低い</p>												
評価を踏まえた研究計画等への対応 ・現在、花きの育種に関しては市場および生産者のニーズを調査し、行政と連携しながら育種を進めている。品種となった後も、デビューの仕方、プロモーションなどを行政と一緒に取り組む方向で進めたいと考えている。 ・トルコギキョウに関しては、引き続き、展示会、現地試験および市場調査を行い、常にニーズの把握に努め、品種登録をしない品種育成から種苗生産・販売へのスピードアップを図っていく。 ・シンテッポウユリについては、生産現場や市場のニーズを見極めながら引き続き育種を行う。													
(参考)過去の評価結果	<table border="1"><thead><tr><th>事前</th><th>中間(年度)</th><th>中間(年度)</th><th>中間(年度)</th><th>中間(年度)</th><th>中間(年度)</th></tr></thead><tbody><tr><td>B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	事前	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	B					
事前	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)								
B													